

## 〔編集後記〕

▲『現代社会研究』第16号を刊行することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。また今後ともよろしくお願いいたします。

▲第125代の今上天皇陛下のご退位に合わせて元号も変わります。それと軌を一にするわけではありませんが、現代社会総合研究所も次年度から本格的に変革されます。本研究所は、社会科学系の学部には附置されていた研究所を統廃合して成立したため、「総合」という点を特徴とします。今回の変革の中核が、所員を総合研究あるいはその前段階としての共同研究に向かわせるということです。そのために、特に客員研究員の選定を皮切りに、本研究所に対する貢献可能性を基準にして、各分野の専門家による総合性に向けての再編成が実施されます。勿論、総合研究に資するための様々な準備も行います。例えば、総合性に向かうための seeds として、すべての所員が研究会や勉強会を立ち上げることを容易にしたり、seeds 支援の一環として、ad hoc な講演会やシンポジウムあるいは学外学会との共催なども容易に行い得るようになります。ここから将来の総合研究につながる seeds が生まれること、見つけ出せることを期待しているからです。そのほかにも細かい変化がありますので、お時間を見つけて是非とも本研究所にお立ち寄りください。白山キャンパス二号館三階の東北の角にあります。

▲東洋大学がスーパー・グローバル大学（SGU）に選ばれてから、学内では様々な変化が生じています。特に学部と大学院を中心とする教育分野に顕著に表れています。その一方で本学が大学であるからには研究の活性化とレベルアップを図りませんと、存在意義を問われます。本学における研究については、学術推進センターの管轄下にある諸研究所や諸センターが専心機関となり、そのなかで本研究所も社会科学系の研究所として、存在意義を世界に認めさせるように努力しなければなりません。それが大学自体の学問的なレベルアップにつながり、結局は大学ランキングを向上させることに、そして個々の研究者の向上に直結するからです。その一環として、本研究所は新たに英文ジャーナルである Japanese Society and Culture を創刊します（冊子体は2019年3月刊行）。勿論電子媒体でも世界に発信します。このジャーナルは、日本に関することを学術的な方法を通して（つまり論文によって）世界に発信し、Japan 自体のブランド化を図ることを目的としています。世界においては既に Japan あるいは Japanese が信頼を得て久しく、実質的なブランドとして通用している現状を、学問世界でも定着させるという構想に基づいています。所員は勿論所員でない学外の方でも、外国の研究者でも自由に投稿できますので、ホームページの投稿要項をご覧の上、詳細はお問い合わせください。

▲上記の傾向から、『現代社会研究』も、育成を目的としている奨励・院生研究員の論文以外の投稿に変化が生じるかもしれません。とても楽しみです。同時に掲載条件のより一層の厳格化も図られるでしょう。特に研究倫理の面は重要ですので、投稿者諸氏は二重投稿や剽窃には十分に注意をしてください。さらに英文（外国語）要旨については、再三にわたってお知らせしているように、未校正で提出されているとしか思えないもの、内容が要旨になっていないものが未だに散見され、編集委員会においては少なくとも英文校正には多大な労力が費やされています。この点に関しても次号の原稿募集時までには何らかの対応がなされるかもしれませんので、連絡を見落とさないようお願いいたします。

▲さて、編集子は今号をもって『現代社会研究』の編集から離れることになりました。次号からは新しい編集関係者が同誌の更なる向上を目指して皆様のご協力を仰ぐことになるでしょう。ともに協力して『現代社会研究』を誉ある学術ジャーナルにしようではありませんか。これまでの御礼を兼ねまして、何卒よろしくお願い申し上げます。

2019年2月吉日

東洋大学現代社会総合研究所  
編集委員長 齋 藤 洋